

吾妻地域審議会

提言書

平成21年8月19日

はじめに

雲仙市が誕生して、4年が過ぎようとしておりますが、雲仙市総合計画に掲げられております市の将来像と施策に基づき、雲仙市のまちづくりが着実に進められておりますことに、心から敬意を表します。

さて、私たち吾妻地域審議会委員15人は、平成19年7月に市長から委嘱を受け、第2期吾妻地域審議会として活動を開始しました。市の総合計画や地域振興計画、委員としての所管事務等について研修し、その責任を深く認識する中で、「地域審議会の設置に関する事項」第3条第2項の「審議会は、必要と認める事項について審議し、市長に意見を述べることができる。」を根拠として、市内全地域が等しく発展することを目指して、地域の課題を探り、提言書としてまとめ、市長に提言することを決定しました。

以来、定例会議を7回と臨時会議を4回開催し、様々な地域課題の一つひとつを市民の目線でしっかりと見つめ、現状と課題やその解決策について審議を重ね、このほど提言書としてまとめることができました。

本来、審議会としての提言は、中長期的な視点に立ってまとめるべきであると考えますが、現状を少しでも早く改善する必要がある事業、また、新規に実施していただきたい事業等があり、ここに本審議会として提言いたします。

平成21年8月19日

雲仙市長 奥村 慎太郎 様

吾妻地域審議会会長 藤沢不美雄

目 次

ページ

- 1 . 産業振興及び地域振興について
 - (1) 農業の活性化と購買力の増進について
 - () 安心安全な農作物の供給 1
 - () 集落営農推進による農業の活性化 1
 - (2) 企業誘致、商工業の振興について
 - () 企業誘致による経済の活性化 2
 - () 商工業の振興について 2
 - (3) 農振除外推進による地域振興について 2
 - (4) 観光振興について 3

- 2 . 参加・協力が可能な地域づくりについて
 - (1) 公園の管理、有効活用について 3
 - (2) 地域づくりによる活性化、人材育成について 4
 - (3) 生涯スポーツの振興について 4

- 3 . 合併後の市政について、全市にかかわる提言
 - (1) 水道料金の緊急な統一について 5
 - (2) 歩道やバス停の整備及び防犯灯の設置について 5
 - (3) 市道・農道の改良 5
 - (4) 島鉄踏切の改良 5

吾妻地域審議会提言書

1. 産業振興及び地域振興について

(1) 農業の活性化と購買力の増進について

() 安心安全な農作物の供給

現状と課題

近年、全国的に健康への関心が特に高くなり、また、食の安心安全が強く叫ばれるようになった。農業が基幹産業である本地域としては、干拓地等での米作は勿論のこと、中山間地ほか畑地での路地野菜栽培や畜産等が盛んに行われている。中には食の世界遺産として登録された「雲仙こぶ高菜」もあり、県下でも有機農業が特に盛んな地域であることから、消費者が安心して食べることができる安全な農作物の供給こそが、本地域の農業者の課題である。

解決策

本地域は、以前から有機農業の盛んな地域であり、食の安心安全が強く叫ばれる今日、行政においても有機農業を中心とした未来型農業を強力に推進することが、消費者ニーズに応えることに繋がり、また、本地域の有機農家の所得向上、若手後継者の育成に繋がるものと考えられることから、市として次の事業を行い、支援する。

有機農業を志す農家に対し、有機農業育成補助金等の支援を行う。

(通常、畑で野菜を作付けし、有機野菜として認定を得るまでには、土壌改良等に4～5年の期間が必要であり、また、資材費等に多額の経費を要する。)

有機野菜の市外への市場開拓、販路拡大、消費拡大への支援を行う。

農薬を使用する農業団地と区別した有機農業の団地化を進める。

有機農産物の安心安全のPRと地産地消の推進を図る。

(病院等でも無農薬野菜は健康に良いと言われる。有機野菜の美味しさ、安心安全を市の産業祭等イベントでPRし、病院や学校給食、スーパー等による地産地消の推進を図る。)

有機農業ネットワーク協議会への支援、会員加入促進への支援

() 集落営農推進による農業の活性化

現状と課題

本地域では、農業の発展と不耕作農地の減少対策の推進を目指して、集落営農組合を発足させ、農作業の受委託、農業機械共同利用の拡大を図ってきたが、利用者が少ないのが現状である。また、各農家とも収入が安定していないことから農業後継者が育たず、農業従事者の高齢化は一層進み、今後は離農者が急増することが懸念されている。

解決策

本地域の農業の活性化を目指し、集落営農組合による農作業の受委託、農業機械共同利用の拡大、不耕作農地の減少対策を目的に、市として次の事業を行い、支援する。

農作業受委託への支援

農業機械共同利用の拡大を目的とした農業機械オペレーターの育成、支援

農業機械共同利用の拡大への支援

不耕作農地の減少対策に対する支援

(農地の管理、シルバー人材センター等雇用に対する支援)

(2) 企業誘致、商工業の振興について

() 企業誘致による経済の活性化

現状と課題

本地域の経済の活性化を目的に、企業誘致に力を入れるべきではないか。

解決策

本地域の経済の活性化策として、企業誘致を推進することを目的に、市として次の事業を行い、支援する。

外部からの企業誘致

地場企業の育成・支援と後継者育成

誘致企業で働く市外出身者の定住推進のための市営住宅の建設

吾妻工業団地の有効活用

() 商工業の振興について

現状と課題

大型商業施設の出店や地元での購買力の低下等により、本地域の多くの個人商店は収益の減少が著しく、経営難に陥り、後継者育成も出来ない状況である。

解決策

本地域の商工業の活性化を目的に、市として次の事業を行い、支援する。

地域内での消費拡大に繋がる商工業者への支援

(地元でしか使用できないプレミアム付き商品券の発売、スタンプラリーの実施、産業祭等のイベントの開催)

買い物できない高齢者世帯への支援策として、「御用聞き」による宅配サービス事業を行い、消費拡大に繋げる。

若手後継者のレベルアップのための研修会等の開催

(3) 農振除外推進による地域振興について

現状と課題

本地域中心部(市役所周辺地域及び諫早湾干拓堤防道路《愛称「雲仙多良シーライン」》の本市側接続付近)の農地に対する農振除外の推進は、合併前からの重要な懸案事項である。また、当該農地の地権者の中には、土地を売買できずに困っている人も現れている状況であり、このことが必然的に不耕作農地の増加にも繋がっている。

解決策

市役所周辺地域及び諫早湾干拓堤防道路の本市側接続付近地域は、島原半島の交通の要衝として重点的に土地開発を行い、観光、流通業等の拠点として振興を図るべきであり、当該農地の農振除外を早急に推進し、市として次の事業を行い、支援する。

民間・市・県の3者協働による交流人口拡大プロジェクトとして、農漁業体験施設を整備し、観光客の誘客や子どもたちの体験学習を推進すると共に、市特産品等販売コーナーを設けて特産品等のPRを行う。

企業や大規模レジャー施設等を誘致する。

島原半島が世界ジオパークに認定された場合は、本地域の土地開発推進が、本市への観光客の誘致に繋がり、また本市観光産業の発展に寄与することが考えられるため、当該農地の農振除外を早急に推進する。

(4) 観光振興について

現状と課題

「まぼろしの邪馬台国」著者の宮崎康平氏が発見した守山大塚古墳や牧場を公園化した牧場の里、諫早湾干拓調整池（愛称「いさはや新池」）内にある干陸地や調整池を有機的に結びつけた有効活用策はないか。

解決策

諫早湾干拓堤防道路取り付け道路の完成に合わせて、諫早湾干拓堤防道路本市側周辺といさはや新池及び干陸地の有効活用策として、市として次の事業を行い、支援する。

干陸地にレジャー施設等を誘致し、地場産業の観光PRのための施設を整備すると共に、いさはや新池には海洋レジャー産業の誘致を行い、観光客の誘客に繋げ、雲仙ブランドや地元農海産物の販売を行い、PRする。

諫早湾干拓堤防道路の交通量は増加傾向にあり、通行車や観光客を呼び込むための観光スポットとして、「お花畑公園（仮称）」を干陸地に整備する。守山大塚古墳や牧場の里を本地域の観光スポットとして整備し、観光客の誘客に繋げる。

2. 参加・協力が可能な地域づくりについて

(1) 公園の管理、有効活用について

現状と課題

本地域では、地域住民の憩いの場、ふれあいの場を目的に各自治会毎に公園整備が進められてきた。また、公園整備と併せて、地域住民の健康増進や親睦融和を目的に各種スポーツ大会等のイベントが開催されるなど、公園整備が地域づくりに活かされてきた経緯がある。しかし、時の経過とともに公園管理が行き届かず、雑草は生い茂り、遊具等は腐食するなどして、今では、ほとんどの公園が利用されなくなっている。公園管理は、現在、市から業者に委託され、既に管理がなされているが、委託経費が少ないのか、受託業者が行う除草作業は不定期で、草木の成長に追い付かない状況である。

解決策

地域住民の要望により整備された公園でもあることから、「地域の公園は、地域住民で守る」という自治意識の醸成と、地域住民の連帯意識の高揚を図ることを目的に、市として次の事業を行い、支援する。

各公園の管理業務を各自治会に委託する。

清掃作業で出た廃棄草木等の処理料は市負担とする。

(2) 地域づくりによる活性化、人材育成について

現状と課題

夏祭りやふるさと祭りといったイベントが開催されなくなった本地域において、これらのイベントを「開催してほしい」という声をよく聞き、イベントに対する関心が強いように感じるが、ここで言う関心は、イベントを「実行委員会スタッフの一員として、一緒に作り上げよう」というものではなく、イベントに「一般客として参加して楽しむ」というものである。

イベントが開催されなくなった要因としては、実行委員会の構成団体や協力団体の減少、団体の会員の減少、イベント開催予算の減少などが挙げられる。中でも、イベントを作り上げるスタッフの減少が第一の要因であると考えられるが、その理由としては、イベントを実施するまでの準備、その後の片付けを仕事やプライベートの時間を削ってまでボランティア活動として行わなければならないのかという悩み、苦勞を感じるが多かったことが挙げられる。

解決策

本地域において、夏祭り等のイベントを地域に根ざした地域住民参加型のイベントとして復活させ、育て上げるためには、地域住民に対し、「地域のイベントは、自分たち地域住民が一緒になって作り上げるものだ」という意識改革を行う必要がある。そして、意識改革が図られた地域住民によって開催されることにより、地域の人材育成が図られ、地域の活性化に発展することから、市として次の事業を行い、支援する。

地域の人たちに関心を持ってもらうだけでなく、参加してみようと思えるような魅力あるイベントづくり

イベント実行委員会スタッフの強化

(準備、本番、後片付けまで、分担してでも協力のできる人の募集)

イベントの内容や経費について参加者にも関心を持ってもらい、面白いアイデアや経費を安く上げるためのヒント、アドバイスになるような意見交換の場を多く持ち、地域住民参加型のイベントとなるように努める。

自治会や各種団体等への働き掛けや話し合いの場の設定、協力

(3) 生涯スポーツの振興について

現状と課題

総合型地域スポーツクラブを設立し、スポーツ・レクリエーションを通じた市民の健康な身体づくりを目標に、文部科学省の委託を受けて2カ年に亘り、スポーツ教室を開催してきた。今後は、自主運営するための運営資金を確保することが課題である。

解決策

いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことが出来る生涯スポーツ社会の実現を目指し、総合型地域スポーツクラブの中で、本地域の市体育指導委員が独自で考案したレクリエーションスポーツ「雲仙アツマクロス」の普及に努め、生涯スポーツの振興を図る。そのためには、総合型地域スポーツクラブの運営費の確保が必要であり、会員300名加入を目標に会員の勧誘を推進するとともに、市補助金及び市保有施設利用料金免除をお願いし、自主運営を目指す。

3. 合併後の市政について、全市にかかわる提言

(1) 水道料金の緊急な統一について

現状と課題

本地域の水道料金が、他地域と比較して高いことから、今後、下水道事業への加入率は上がらないのではないかと心配される。市内全地域の水道料金体系の違い（簡水及び上水料金については、口径別、用途別）について、市民に対し周知徹底を行う必要があるのではないかと。

解決策

市水道料金審議会の答申に基づき、平成21年3月定例議会において「水道事業給水条例の一部を改正する条例」について議決されたことにより、審議会答申の目標に段階的に調整し、料金の統一を図る。

(2) 歩道やバス停の整備及び防犯灯の設置について

現状と課題

本地域には、国道251号沿線の歩道やバス停が一部しか整備されておらず、歩行者の通行に支障を来している。

また、本地域の市道には防犯灯が少なく、不審人物が増加傾向にあり、危険である。

解決策

本地域の国道251号を利用する車やその沿線の歩道を利用する歩行者の安心、安全の確保を目的に、歩道やバス停を早急に整備する必要がある。また、本地域の不審人物が隠れ易い危険箇所を把握し、その対策として防犯灯を早急に設置する必要がある。

これらの対策として市として、国や県に強力に要望し、歩道やバス停の整備及び防犯灯の設置を進める。

(3) 市道・農道の改良

現状と課題

合併前は、町道等の整備計画が立てられ、毎年、計画的に進められてきたが、市になってから、本地域の市道の整備はなかなか進まない状況にある。

解決策

市の市道整備計画を公表し、年次的、計画的に市道の整備を進める必要がある。

市道吾妻横田線及び市道横田・旗島線、市道吾妻横田支線の交差点付近における各市道の改良拡幅工事を早急に進める。

市道吾妻三室幹線（広域農道～三室4自治会区間）の改良拡幅工事を早急に進める。

鶴田小学校裏の農道の改良拡幅工事を早急に進める。

(4) 島鉄踏切の改良

現状と課題

本地域を通る島原鉄道の遮断機がない踏切において、車と列車による接触事故がこれまで3回発生した所があり、大変危険である。

解決策

市として、事故等が多発している危険な踏切を優先して改良工事を早急に進める。